

## 東日本大震災の復興施策の総括に関する

### ワーキンググループ 現地調査結果報告

#### 福島県における現地調査

実施日 : 令和元年8月2日(金)

訪問先 : 福島県 いわき市、広野町、檜葉町、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町、南相馬市

参加者 : 増田座長代理、姥浦構成員、藤沢構成員

行程 :

○いわき市

・小名浜魚市場

○広野町

・福島県立ふたば未来学園

○檜葉町

・J ヴィレッジ

○富岡町

・国道6号線沿線他

○大熊町

・大熊町役場、大川原地区

○双葉町

・双葉駅、中野地区

○浪江町

・福島水素エネルギー研究フィールド

○南相馬市

・福島ロボットテストフィールド

#### ○いわき市(小名浜魚市場)

##### 主な内容:

- ・前田小名浜機船底曳網漁業協同組合経理部次長から、魚市場の概要について説明があった後、荷捌所、放射能検査室を視察。
- ・復興交付金事業である小名浜地域水産業施設復興整備事業により、大型の冷凍・冷蔵庫を設置され、受入態勢が整ったことが影響し、サバの水揚げ量が急激に増加した。
- ・一方で、カツオなどは、現在でも風評によりスーパーや大手量販店などの買い手が少なく、水揚げ量が大きく落ち込んでいる。
- ・県が行うモニタリング検査に加え、県漁協による自主検査により、放射能の検査を実施。出荷については、国の基準値 100Bq/kg よりも厳格な自主基準値 50Bq/kg を設け

ている。地道に検査を行って安全性を確認し、消費者へPRを続けていきたい。

### ○広野町(福島県立ふたば未来学園)

#### 主な内容:

- ・校内に設けられた地域住民や生徒が利用できる多目的スペース(カフェ)を視察後、南郷副校長から学園の設立経緯・概要及び今後の課題について聞き取り。
- ・学校としては教員加配や学校運営への支援など復興・創生期間後も一定の支援をお願いしたい。
- ・教員人事や研修を通じ、本学園での教育や取組を県内に広げていきたい。
- ・多目的スペース(カフェ)での地域住民と生徒の出会いやシンポジウムなどを通じて、教育と地域復興の相乗効果を生むよう、取り組んでいきたい。

### ○檜葉町(Jヴィレッジ)

#### 主な内容:

- ・Jヴィレッジ駐在員から概要説明、展望室よりピッチの視察。

### ○富岡町(国道6号線沿線他)

#### 主な内容:

- ・宮本富岡町長から、車中より、富岡町の復興・復旧の取組状況について説明あり。
- ・鳥獣被害・空き巣対策が地域全体の悩みとなっている。
- ・住民登録数と実際の居住者数が異なるため、現状把握に苦慮しながら取り組んでいる。
- ・廃墟となった店舗跡を解体してほしいが、所有者が解体要請に応じてくれない場合があり、苦慮している。

### ○大熊町(大熊町役場、大川原地区)

#### 主な内容:

- ・石田大熊副町長から、特定復興再生拠点等の町の復興状況について説明あり。意見交換の後、車中より仮設商店・公営住宅を視察。
- ・復興住宅の工事の遅れは、人手不足と価格の両方の問題がある。
- ・風化を心配している。まだ96%は帰還困難区域であり、復興できていない状況。
- ・住民意向調査を踏まえると、医療・福祉など安心して暮らせる環境を整備することが必要。

### ○双葉町(双葉駅、中野地区)

#### 主な内容:

- ・金田双葉副町長から、帰還困難区域内の双葉駅前で、特定復興再生拠点区域における双葉町の復興・復旧の取組状況について説明あり。車中より、中野地区の復興産業拠点、産業交流センター、アーカイブ拠点施設の建設予定地を視察。
- ・まとまった住環境整備を先行して行うため、従来の市街地である駅の東側でなく、町有地が確保できた駅の西側に、生活拠点整備を行った。
- ・震災以降、双葉町のみ全町避難が継続しており、復興から8年という時間軸で評価するのではなく、避難指示解除からの年数という時間軸で評価してほしい。財政支援に

- についても避難指示が解除されてからの時間軸でお願いしたい。
- ・町の復興のさきがけとなる「働く拠点」として、中野地区復興産業拠点を整備。
  - ・中野地区復興産業拠点については、廃炉関係、建設関係、航空機産業用のカーボン関係、繊維関係など幅広い産業と立地協議している。
  - ・企業誘致においては、自立・帰還支援雇用創出企業立地補助金、避難指示解除準備区域等の税制支援制度、電気料金の優遇、町独自の補助などの優遇措置の効果が大きい。
  - ・職員の採用など行政機能の維持が課題。地元出身者の採用が1～2割となっており、震災前の町を知らない人が多くなっている。

### ○浪江町(福島水素エネルギー研究フィールド)

#### 主な内容:

- ・山根東芝エネルギーシステムズグループ長より、建設現場にて、福島水素エネルギー研究フィールドの概要について説明及び施設視察。
- ・2020年7月に試験運転を行う予定であり、予定通り進んでいる。
- ・水素の供給先は水素ステーションを想定
- ・津波が来ても到達しない高さに耐震等級3で設計しており、電気がなくても自動的に窒素が充填され自動停止する仕組みであり、津波、地震のリスクに対して安全。
- ・水素の製造・貯蔵施設として世界最大の施設であり、水素の製造・貯蔵だけでなく電力システムの需給バランス調整(DR)機能を持つ施設としては世界初。

### ○南相馬市(福島ロボットテストフィールド)

#### 主な内容:

- ・門馬南相馬市長より、南相馬市の復興の概要について説明あり。細田福島ロボットテストフィールド副所長より、福島ロボットテストフィールドの概要について説明があったのち、屋上より視察。
- ・帰還環境やインフラなど整ってきたので、利活用していく段階にきている。
- ・65歳以上の高齢者は震災前より増加しているが、若者が戻ってきておらず課題。福島ロボットテストフィールドは、若者が戻ってくるための施設とも認識。
- ・小高地区の学校、福島ロボットテストフィールドを除き、交流施設の建設等のハード面における復興の取組はほぼ完成。
- ・緩衝ネット付飛行場は4月のオープン以降利用予約が多く、研究棟における企業の研究室も全室入居予定と好調。